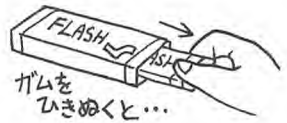


パッチングムというの覚えていますか。ガムを引き抜くとパチンと金具が指をたたやく。オーナーは子どもの頃に学校の先生にこれをやられて、なんていい先生なんだろうと思って大好きになったそうです。これですよ！指先ちょっと痛くなったって「やられたー！わはははは」ってみんなで笑いあってそれで一気に親しくなるんじゃないですか。



クレーマーのおかげかこのパッチングムも最近のは全然痛くない。なにこれ？芸人さんが一番困る「リアクションが取りにくい中途半端なオチ」だから、お店では昔の「痛い！」製品も探して並べて両方体験してもらっています。売れ行きがいいのは痛いほう。そりゃそうですよ。



ある日。すごい見つけてきました。ポテトチップの筒のびっくり箱、30センチぐらいのリアルなポテトチップの筒からバネの蛇が飛び出すすけど、この長さが半端じゃない！筒の6倍ぐらい！2メートル近い蛇が飛び出すす。狭いごちゃごちゃした店内で開けたら大変！どこへ飛ぶかわからない。棚の細かいおもちゃをなぎ倒したりして大惨事、かなり強力なバネなので筒にしまうのも大変です。でも、「やっぱりびっくり箱ってこのぐらい迫力なくちゃね」「こりゃあいいものを仕入れた」と喜んでいたのですが……。



何度かお客さんをびっくりさせて何度もフタを開け閉めしていると、紙の筒ですから口がだんだん広がってゆるんでくるんでしょうね。

お客さんが来ない静かな午後、オーナーがテレビ見て、私が製作に夢中になっているのどかな時間に突然バコーン！と店の真ん中で2メートルの蛇が飛び出すす。二人とも心臓が止まるほどびっくりする！それがたびたび起きるので……

今ではこのポテトチップ、みんなラップできつく封印されてしまいましたとき。次に仕入れるかは思案中……。



鎌倉おもちゃ屋物語

くろすかずきよ

その5

面白駄玩具の紹介と
新米おもちゃ屋の
どたばたエッセイ!

「お客さん来ませんねえ」「ほんとだねえ」

おじさん二人が退屈そうにつぶやく図は漫画としては面白いですけど……私が店番に行く金曜日、平日ですからまあお客さんが来ません。ひげダルマのオーナーはタバコをふかしテレビに夢中、私は黙々とおもちゃ作ってます。そんなのどかな午後、珍しくお客さんが入ってくるとオーナーは必ずこんな本を開かせます。



開けると本からばたばた！ チョウが飛び出す！
お客さんはキャッ！ これは外国製のこんなおもちゃ。
高く舞い上がるわけではなく死にかけの蛾みたくに
ジタバタして飛び出す感じがリアル！

びっくり箱系のおもちゃはやっぱ楽しいです。
人を驚かせて喜ぶのは人間の本能なのでしょうね。
漫画ではよくこんなふう描かれますが (A)
実際こんなサイズでこんなに伸びるバネはありません。
これは空想の世界のびっくり箱。
今置いてある現実のびっくり箱は小さな「びっくり缶」。



バネが伸びるときにポリ製の袋状の芋虫の体に空気が入り、顔に仕込んである笛を空気が通るのでピューッと鳴るのですね。音のおかげでびっくりが倍増します。でも今、もうこれは製造されてないのですよ。ずいぶん前の製品を古い問屋の棚の奥から見つけてきたものなんです。問屋のおじさんが言いました。

「びっくりして子どもが泣いちゃった、とクレームがたくさん来るようになったんでメーカーが作るのをやめちゃったんだよ」。なんと！ びっくり箱が作れない！ 億総クレマーの時代なんですよ。なんか悲しいですね。

黒須和清 1955年東京生まれ。横浜在住。
洗足こども短期大学教授として手作りおもちゃや人形劇を教えるかたわら、ペーパークラフトや執筆活動、研修会講師の仕事などで忙しい。